

友の会だより

No.78

2026.02

茨城県陶芸美術館友の会

展覧会
案内

吉田璋也のデザイン —新作民藝運動がめざした未来

会 期：2026年3月14日(土)～6月21日(日)
主 催：茨城県陶芸美術館、NHK水戸放送局、NHKプロモーション
制作協力：NHKエンタープライズ中部
特別協力：鳥取民藝美術館
後 援：笠間市、朝日新聞水戸総局、茨城新聞社、産経新聞社水戸支局、東京新聞
つくば支局、毎日新聞水戸支局、読売新聞水戸支局、Lucky FM茨城放送

吉田璋也(1898-1972)は医師でありながら、民藝のプロデューサーとして日常の暮らしに用いられる品を自らデザインし、生産・流通・販売の体制を確立し、民藝運動に生涯を捧げた人物です。

吉田は柳宗悦(1889-1961)が提唱した民藝運動に共鳴し、1931年に鳥取で医院を開業したのち、陶芸・木工・染織・和紙・金工などの職人を集めて「現代の生活にふさわしい日用品」づくりを行いました。流通・販売のため「たくみ工芸店」を1932年に鳥取に開店し、1933年には東京に進出します。これらの活動は後に「新作民藝運動」と呼ばれました。

本展では、吉田璋也が伝統的な手仕事を現代の生活に根付かせるためにデザインした「新作民藝」の軌跡を、関連する作品や資料を展示し、ご紹介します。



▲伸縮式中折傘電気スタンド
1932年 鳥取民藝美術館蔵



▲緑釉白釉黒釉三方掛分皿
1957年 鳥取民藝美術館蔵



▲医師用車輪付椅子
1952年 個人蔵



▲ににぐりネクタイ
1931年 鳥取民藝美術館蔵

※作品はすべて吉田璋也デザイン

展覧会関連催事のご案内

*詳細は、チラシや当館ウェブサイト等をご覧ください、お問い合わせください。

◆講演会「吉田璋也のものづくり」【予約優先・定員90名】

鳥取民藝美術館の尾崎麻理子氏に吉田璋也が「プロデュース」した出品作品の見どころについて、当時の資料から吉田の仕事ぶりを紐解きつつご紹介いただきます。

講 師：尾崎麻理子氏(鳥取民藝美術館学芸顧問)

日 時：3月14日(土) 13時30分から15時00分まで

会 場：当館1階多目的ホール

参加費：無料(要企画展観覧料)

◆ギャラリートーク(予約不要)

担当学芸員が展覧会をご案内いたします。

日 時：5月9日(土) 13時30分から

会 場：当館地下1階企画展示室

参加費：無料(要企画展観覧料)

(当館ウェブサイト)



茨城県陶芸美術館ホームページ <https://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

古（いにしえ）の工人と語る

戸田 浩二 氏

対談は、笠間市中市原にある自然豊かな工房で、戸田さんの作品に囲まれた中で行われました。



ご出身はどちらですか
愛媛県西条市です。

陶芸の道に進まれた経緯について

大学時代はサッカーに熱中しました。卒業後、実業団チームに入って活動したこともあります。他にもっと熱中できるものを探して、フリーターをしていました。福島県裏磐梯で住込みのアルバイトをしていた時に、そのオーナーからの提案もあり、陶芸を志すことにしました。その後、笠間や益子の陶芸家を訪ね、結果的に伊藤東彦先生のところに弟子入りしました。伊藤先生のところでは、陶芸だけでなく、自然と関わったり、休みの日には各地の美術館を巡ったりして、陶芸の技術だけでなく、いろいろな「も

のを見る目」も育ててもらいました。

作品作りについて

最初は、普通にいろいろな器を作ってみたのですが気に入ったものができませんでした。そんな時、東京の法隆寺宝物館で見た作品がきっかけで、水瓶（すいびょう）を作ってみたくになりました。これがきっかけとなって、古代中国の青銅器や朝鮮半島の器を表現してみたくになり、今ある作品を作るようになりました。古の工人たちが創り上げた形に自分の表現が加わって新たな形が出来上がる一すごいことだと思います。今はそういった作品作りが中心になっています。

また、使用する陶土にもこだわりました。いろいろと土を探したのですが、急須作家の黒田隆さんから高萩にはいい土があると聞いて、探し回りましたがなかなか思い通りの土が見つかりませんでした。そんな時、何と工事現場で「出会う」ことができました。以来、この土を使って、自宅の薪窯で、焼き締め作品づくりをしています。

今後どんなことをやりたいか

現在作っている古代由来の焼き締めの作品づくりを続けたいと思います。また、笠間への恩返しや黒田さんの急須づくりの流れを絶やしたくないとの思いから、「丘上八雲（OKAUE YAKUMO）」という急須制作の工房を作って若い人たちと活動しています。自分では思いつかない新しい世代の発想に触れることができて楽しいです。

近年では、笠間に新規採用された学校の先生方の研修会で、笠間焼体験の指導もしています。いろいろな形で笠間の良さを伝えていきたいと考えています。

プロフィール

1974年 愛媛県西条市生まれ
1996年 筑波大学 体育専門学群 卒業
1998年 伊藤東彦に師事
2002年 茨城県笠間市に薪窯を築く
2013年 「ASIA WEEK NEW YORK」MIKA GALLERY（～'19）（アメリカ）
2023年 第17回パラミタ陶芸大賞展（三重）
2024年 アートフェア東京「一尖」 ギャラリーこちゅうきょ（東京）（予定）
2026年 3／8～5／17 個展「儂水揺」益子陶芸美術館（栃木）

対談を終えて

古代由来の漆黒に焼き締められた作品に囲まれた中でお話をお伺いすると、大和の古寺を訪れた時のような古代人の息吹が感じられるような空間でした。また工房の外は、自然が一杯で、この恵まれた場所で、中国や朝鮮の古（いにしえ）の工人らと競いながら、大地のパワーを取り込んで、作品作りに熱中している姿が感じられる訪問でした。



戸田 浩二 展
— 儂水揺 —

やきしめもうすいよう
焼締儂水揺



やきしめせん
焼締尖



やきしめすいよう
焼締水鏡



やきしめきょうづつ
焼締経筒



やきしめすいびょう
焼締水瓶

主催事業実施報告

●呈茶会

今年度も11月13日（木）に、呈茶会を茨城県陶芸美術館地下1階オープンギャラリーで開催しました。当日は茨城県民の日ということで入館無料の日として、759名のお客様が来館されました。席主は永地宗栄社中に務めていただき、午前10時30分からの5席はほぼ満席となりました。「陶の栗」（笠間の栗を使ったお菓子）と一緒にセットでお茶を味わうことができ、参加された方々は大変満足そうでした。



●研修視察

今年度は、「北陸の陶芸と文化を楽しむ3日間の旅」のテーマで、12月2日（火）～4日（木）の2泊3日の日程で、福井県・石川県を訪問しました。1日目は福井陶芸館、2日目の午前中は人間国宝の中田一於さんを訪問し、直接お話をお聞きすることができました。午後は石川県立美術館、金沢21世紀美術館へ視察、3日目は大樋美術館の視察を行いました。3日間を通して素晴らしい作品を堪能し、陶芸に関する研修を通じて作品についての専門性を高めることができました。また、友の会員相互の親睦も深めることができ充実した3日間となりました。



1日目 福井陶芸館の視察



2日目 人間国宝 中田一於さん訪問



3日目 大樋美術館の視察

会員の皆様へのお願い

◆令和8年度友の会会費納入のお知らせ

令和8年度友の会会費の納入をお願いします。会費は「現金」「友の会口座へ直接振り込み」「銀行口座振替サービス」のいずれかとなります。どうぞよろしくお願いします。詳細は別紙をご参照ください。



良い品をそろえてご来店をお待ちしています

友の会特約店のご紹介

アトリエ・フラスカ	(土)(日)(祝日) 営業
笠間工芸の丘	0296-70-1313
笠間みんげい	0296-72-9280
かつら陶芸	0296-72-6688
ギャラリー桜	0296-72-0803
ギャラリー舞台	0296-73-0700
笠間焼窯元共販センター	0296-72-5665
きらら館	0296-72-3109

● 2月3日(火)～2月15日(日)

川田 達哉・敦子 作品展

● 2月17日(火)～3月1日(日)

火音陶房 松下 昇二・知子 作品展

● 3月3日(火)～3月15日(日)

坪内 孝典 作品展

● 3月17日(火)～3月29日(日)

矢津田陶房 作品展

● 3月31日(火)～4月12日(日)

大畠 穂 作品展

● 4月14日(火)～4月26日(日)

未定

● 4月28日(火)～5月10日(日)

浜野 陽子・松井 香織 作品展

● 5月16日(土)～5月31日(日)

中村 明美 作品展

向山窯	0296-72-0194
丹野陶房	0296-72-4028

陶芸館	0296-72-6650
東風舎	0296-72-5205
無限堂	0296-72-1695
やまさき陶苑	0296-72-6865
涼	0296-72-0712
ミュージアムショップ(館内)	0296-72-7105
レストラン「風の丘」(館内)	0296-72-0197

各店舗で買物をされる際、会員証を提示していただくと、陶器が10%割引となります。(一部除外品があります。) 笠間工芸の丘は体験のみ対象です。レストラン「風の丘」は飲み物サービスとなります。

友の会からのお知らせ

会員募集

茨城県陶芸美術館友の会では、会員を随時募集しています。陶芸が好き、陶芸についてもっと知りたい、体験をしたい・・・そんなあなたの期待に応えます。

一般会員：年会費3,000円

家族会員(※同居家族2人に限る)：年会費(2人で)5,000円

特典1 コレクション展・テーマ展が、何度でも無料で観覧できます。

特典2 企画展が年2回まで無料で観覧できます。

特典3 会報の無料配付(年3回)を受けられます。

特典4 特約店において、陶磁器等の購入で割引が受けられます。

特典5 友の会主催の各種事業に参加できます。

お問い合わせは茨城県陶芸美術館友の会担当までお願いします。
茨城県陶芸美術館友の会事務局(茨城県陶芸美術館内)
電話 0296-70-0011 FAX 0296-70-0012

編集後記

近い将来、首都直下地震が起こると心配されています。そんな折、災害にあわれた地域での元気な朝市のニュースを見て、心が暖かくなりました。手を取り合って、前に進んでいる姿に、生きる力の強さを改めて感じました。頑張ろう！力を合わせよう……。

友の会だより No.78

発行：令和8年2月1日
編集・発行：茨城県陶芸美術館友の会
〒309-1611 笠間市笠間2345
電話 0296-70-0011 FAX 0296-70-0012
編集委員：小葉 和子 鈴木 充 佐藤 誠